

平成28年度第2回江田島市総合教育会議 議事録

平成28年11月16日(水)、江田島市役所4階403会議室において、平成28年度第2回江田島市総合教育会議を開催しました。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後3時

閉会 午後4時13分

2 出席者

(1) 構成員

市長	田 中 達 美
教育委員会委員長	三 島 雅 司
教育委員会委員長職務代理者	樋 上 美由紀
教育委員会委員	柳 川 政 憲
教育委員会委員	今 井 絵里子
教育委員会教育長	塚 田 秀 也

(2) 関係者(教育委員会事務局)

教育次長	小 栗 賢
学校教育課長	畠 藤 邦 子
生涯学習課長	仁 井 雄 一
学校給食共同調理場総括場長	森 脇 正 明
江田島図書館長兼能美図書館長	木 場 久仁子

(3) 総合教育会議事務局

総務部長	山 本 修 司
総務課長	山 井 法 男
総務課 行政係 主任	山 崎 充 宏

3 傍聴人

なし

4 議事日程

- (1) 議事録に署名する者の決定について
- (2) 協議第2号 平成29年度新規・拡充事業について
- (3) その他

5 議事の概要

○ 山井総務課長

定刻になりましたので、ただ今から、「平成28年度第2回江田島市総合教育会議」を開催します。

現在、出席されている構成員は、6名でございます。

本日の議事日程は、あらかじめ、お手元に配付したとおりでございます。

なお、本日の会議には、構成員の皆様に参加していただいたほか、教育委員会事務局職員5名、総合教育会議事務局職員3名が出席しています。出席者の紹介は、お手元にお配りしています「資料2」に代えさせていただきます。

それでは、開会のあいさつを、田中市長が行います。田中市長、お願いします。

○ 田中市長

皆様、こんにちは。本日は、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

この会議は、昨年度から施行されたものでありまして、今年度は、2回目の開催となります。

本日の会議では、平成29年度の当初予算の編成前の時期でございまして、「平成29年度の新規・拡充事業」について、協議を行いたいと思います。

本市の教育について協議する貴重な場でありまして、遠慮なく意見を出していただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

○ 山井総務課長

ありがとうございました。

進行ですけれども、この会議は、田中市長が議長になっておりますので、田中市長にお願いしたいと思います。よろしく願いします。

○ 田中市長

それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。

この会議は、公開となっておりますけれども、傍聴の申込みがありませんでしたので、お知らせしておきたいと思います。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

まず、「(1) 議事録に署名する者の決定について」でございます。

江田島市総合教育会議運営規程第14条第2項の規定に基づきまして、私とともに議事録に署名する者を決定いたします。このことについて、平成27年7月21日に開催された、平成27年度第1回江田島市総合教育会議において申し合わせましたとおり、「資料2」の名簿の構成員の下段からの順番といたします。よって、今回は、樋上教育委員会委員長職務代理者をお願いしたいと思います。

なお、江田島市総合教育会議運営規程第14条第1項の規定に基づきまして、議事録を作成する者には、総務課 山崎主任を指名いたします。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

「(2) 協議第2号 平成29年度新規・拡充事業について」でございます。

内容につきましては、塚田教育委員会教育長に説明を求めますので、よろしくお願いいたします。

○ 塚田教育委員会教育長

私の方から、「平成29年度新規・拡充事業について」説明申し上げます。

詳細につきましては、学校教育課長と生涯学習課長をして説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

○ 畠藤学校教育課長

それでは、平成29年度新規・拡充事業の案について、説明をさせていただきます。

資料5ページを御覧ください。平成29年度拡充事業「ICT活用事業」でございます。

事業を実施する理由といたしましては、大きくは2点ございます。

1点目は、児童生徒の学力向上です。授業でICT機器を効果的に活用することにより、各教科等の目標を達成し、児童生徒の学力を向上したいと考えております。

アの広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果を御覧ください。現在の江田島市の児童生徒の学力の状況といたしましては、広島県の平均通過率との差を表にお示ししております。小中学校ともに県平均を上回っております。

次に、イの教育基本法に基づき政府が策定する総合計画であります、第2期教育振興基本計画の中に記載がございます「基本施策25」に「良好で質の高い学びを実現する教育環境の整備」として、「教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数3.6人」、「教材整備指針に基づく電子黒板・実物投影機の整備」、「超高速インターネット接続及び無線LAN整備率100%」が挙げられています。

さらに、ウの次期学習指導要領での位置付けといたしまして、平成28年8月19日に出されました「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)」におきましては、「条件整備として、ICTの環境整備を進める必要がある。現在では、社会生活の中でICTを日常的に活用することが当たり前の世の中となっており、子供たちが社会で生きていくために必要な資質・能力を育むためには、学校の生活や学習においても日常的にICTを活用できる環境を整備していくことが不可欠である。」とされています。

エの教員のICT活用指導力についてでございますが、研修受講率は、表のとおりとなっております。

次に、オにございますように、市議会の文教厚生常任委員会の方々が、平成27年度に小中学校2校を訪問され、ICTを活用した授業を見学されました。さらに、ICT教育を推進するようにとの要請もございました。

事業を実施する理由の2点目といたしまして、教員の業務改善を挙げております。校務でICT機器を効果的に活用することにより、教員の事務負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保したいと考えております。

文部科学省「教員勤務実態調査(平成18年度)」の結果では、教員の残業時間は、月約34時間となっております。昭和41年度と同じ調査の月約8時間と比較して大きく増加しており、

学校の負担が増し、教職員の多忙化が進行しております。広島県教育委員会は、「業務改善プロジェクト・チーム」を設置し、県立学校、市町立小中学校が学校の業務改善に取り組むようにしております。平成27年度は、県内に業務改善モデル校62校を指定されました。江田島市の指定校は、大柿中学校です。平成28年度は、モデル校が拡大され、130校が指定されております。江田島市の指定校は、引き続き大柿中学校と、新規校として江田島小学校と江田島中学校が追加されました。

資料6ページをお開きください。これらの理由を基に、事業の内容としまして、表のとおり実施してまいりたいと考えております。

児童生徒の学力向上に関わりましては、4点ございます。

1点目は、継続して、今年度の指定校であります、大柿中学校、中町小学校におきまして、デジタルペンとタブレットを活用した授業を行い、研究をさせたいと考えております。指定校を拡大するという案もございましたが、まだ研究途上であり、今後、成果と課題を検証した上で検討してまいりたいと考えております。

2点目は、新規でございますが、無線LANの環境を導入したいと考えております。無線LANの環境があるメリットといたしましては、この導入により、パソコン教室だけではなく、全ての教室からインターネットが利用可能となります。体育館や屋外での授業にも、利用が広がります。また、教材の送受信や共有化が可能となりますので、教材を児童生徒や教職員が共有し、活用することが可能となります。

3点目は、引き続き、学校職員のICT活用指導力を向上させるため、市教委主催研修や校内研修を実施してまいります。

4点目は、市教委及び学校職員が、先進校を視察したいと考えております。先進的な取組を視察することで、より高みを目指してまいりたいと考えております。

事業の内容の大きな2点目でございますが、教員の業務改善の観点から、新規で、全校に「校務支援システム」を導入したいと考えております。

校務支援システムとは、今まで、テストの点数を入力したら成績表や指導要録に反映されたり、手書きで処理していた業務をパソコンで行ったりできるなど、効率的に業務を進めることができるというシステムです。

今年度は、各学校から推薦された教職員が校務支援システム検討委員会におきまして、どのようなシステムであれば、本市の教職員が活用しやすいかということを検討してまいりました。教職員からも、「業務改善となるのであれば、使ってみたい。」、「デジタル化されるのは、大変よい。」という声がありました。

「ICT活用事業」については、以上です。

続いて、資料7ページを御覧ください。平成29年度拡充事業「外国語指導事業」についてでございます。

事業を実施する理由といたしましては、児童生徒の英語力の向上です。教職員の授業力を向上させるとともに、児童生徒に目標を持たせ、学習意欲を高めることで、児童生徒の英語力を向上させたいと考えております。

現状といたしましては、アの広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果を見ていただきますと、平成25年度から平成27年度の過去3年間の中学校英語の平均通過率は、県平均を下回っておりますが、今年度から新たにこの事業を実施しましたところ、県の平均通過率を5.3ポイン

ト上回ったという結果になっております。また、生徒質問紙の「英語が好きですか？」という質問に対しても、今年度は、昨年度より更に上回っております。

この学習指導要領での位置付けとして、現行の学習指導要領では、小学校第5・6学年でそれぞれ週1時間の外国語活動の授業を行っておりますが、次期学習指導要領では、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から施行されますが、小学校第3・4学年でそれぞれ週1時間の外国語活動の授業を行い、小学校第5・6学年でそれぞれ週2時間、教科として英語科の授業を行っていきます。中学校の英語科の時間は、未定となっております。

ウの国の第2期教育振興基本計画では、国際共通語としての英語力の向上が挙げられております。英語力の目標としましては、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度から2級程度以上を達成した中高校生の割合を50%にすると示されています。

現状といたしましては、江田島市の中学生の英検3級以上の合格者は、平成26年度は全生徒の11%、平成27年度は全生徒の12%となっております。今年度から受検料を助成しており、今年度の第1回の合格者については、表のとおりとなっております。

事業の内容としましては、外国語指導助手（ALT）の配置拡充を考えております。小学校の外国語活動について、円滑な移行を図るため、先行して小学校第3・4学年で授業を行います。ALTを1名加えて更に活用することにより、ネイティブの英語に触れさせるとともに、国際理解を深める学習活動の展開をしてみたいと考えております。

次に、引き続き、英語検定費用の全額助成を考えております。英語検定を活用することにより、中学生の英語に対する学習意欲を向上させるとともに、生徒の英語力を向上させます。県内の補助の状況は、資料7-2ページのとおりとなっております。本市以外にも、英語検定について、受検料の補助をしている市町がございます。

それでは、資料7ページに戻っていただきまして、最後に、現在も実施しておりますが、イングリッシュキャンプへの補助も継続して行ってまいりたいと思います。中学校教育研究会英語部会が主催するイングリッシュキャンプにおいて、ALTを派遣し、グローバルマインドや実践的なコミュニケーション能力の育成を図ってまいりたいと考えております。

「外国語指導事業」についての説明は、以上です。

続いて、資料8ページを御覧ください。平成29年度継続事業「中学校エアコン設置事業」についてでございます。

事業を実施する理由といたしましては、適切な学習環境の整備ということです。

近年の温暖化等による猛暑により、学習環境の悪化が懸念されています。市内小中学校の普通教室及び特別支援学級教室にエアコンを設置し、適切な学習環境を整えるというものでございます。

まず、学校保健安全法に基づく文部科学省告示である「学校環境衛生基準」におきまして、教室等の温度の基準は、「10℃以上、30℃以下であることが望ましい。」とされています。改訂版の学校環境衛生管理マニュアルには、その解説として「児童生徒等に生理的、心理的に負担をかけない最も学習に望ましい条件は、冬期で18～20℃、夏期で25～28℃程度である。」とされています。平成27年7月から9月に中学校の室温調査をいたしましたところ、表のとおりとなっております。国の基準よりかなり室温が高いことがわかります。

近隣市町における普通教室及び特別支援学級教室へのエアコン設置状況でございますが、資料8-2ページを御覧ください。平成28年10月現在の状況で、西部教育事務所管内の設置済み

市町は、大竹市と海田町と大崎上島町の1市2町でございます。近隣の呉市におきましては、中学校は平成28年度に設計、平成29年度に工事予定、小学校は平成29年度に設計を行うとのことでした。広島市は、今年度末までには全て設置済みになるということでした。

では、江田島市内の小中学校エアコン設置状況でございます。資料8-3ページを御覧ください。今年度、江田島中学校と能美中学校の普通教室と特別支援学級教室にエアコンを設置しました。各学校の普通教室には、江田島中学校、能美中学校以外に設置されていません。特別支援学級教室には、設置されている学校がございます。その他には、職員室、校長室、保健室、パソコン教室には、エアコンが全校設置されています。

それでは、資料8ページにお戻りください。中学校校長会の意見としては、4名とも「是非とも設置していただきたい。」という声がありました。

事業の内容といたしましては、平成29年度には、大柿中学校の普通教室と特別支援学級教室の設置工事を行いたいと考えております。

今後の江田島市立小中学校のエアコン設置計画につきましては、資料8-4ページを御覧ください。平成26年度に中学校全てで設計、そして、平成28年度に江田島中学校、能美中学校にエアコン設置済み、来年度に大柿中学校で設置工事を行うという計画でございます。

「中学校エアコン設置事業」についての説明は、以上でございます。

学校教育課分は、以上です。

○ 仁井生涯学習課長

引き続き、生涯学習課の平成29年度新規事業の案について、御説明いたします。

資料9ページを御覧ください。平成29年度新規事業、まだ仮称ではございますが、「ふるさと再発見事業」としております。

江田島市の現状といたしましては、市内に多数存在する歴史遺産が十分に生かされているとはいえないこと、また、人口減少や高齢化の進展等に伴い、懐かしい風景や地域の歴史資料が失われていくことが懸念されることが挙げられます。

これらの解決のため、第2次江田島市総合計画に掲げる、「伝統文化・文化財の保存」に基づいて、3つの目的を掲げました。

まず、1つ目が、幅広い年齢層に対し、「歴史」をキーワードとしてふるさとに再度、目を向けてもらい、ふるさとの良さを再発見してもらう機会を提供すること、2つ目が、統合型GIS上において、文化財等の種類や場所に関するレイヤを構築し、文化財の適切な保存・管理を行っていくこと、最後に、古写真を収集し、適切に管理するとともに、効果的な活用を図ることの3つです。

これらの目的を達成するために、3に掲げる4種の事業を計画しております。

1点目は、市文化財パンフレットの刷新でございます。現在、平成19年に作成したパンフレットがありますが、10年近く前のもので、情報としては古いものである上、残部数も少なくなっておりますので、新たに作成するものでございます。刷新に当たっては、市内の文化財の単なる一覧ではなく、江田島市の歴史を概観できたり、市内の周遊にも使用できるような、各方面にも広がりのあるものを考えております。

このため、平成29年度に現地踏査等を含めた情報収集と整理を行い、平成30年度にパンフレットの作成を行うことを計画しております。

2点目は、ふるさとの偉人紹介といたしまして、大柿町出身の漆芸家、六角紫水氏に関する企画展を計画しております。平成29年は、六角紫水氏の生誕150周年に当たるため、広島県の所蔵作品を借り受け、展示するとともに、セミナー等を開催することを考えております。

なお、この事業につきましては、芸術文化振興基金の助成を申請することとしております。

3点目は、文化財等情報のデジタル管理として、平成29年度に更新が予定されている統合型GIS上に、文化財等関連情報を管理するためのレイヤ等を作成することを計画しております。GISというのは、地図データの上に各種の情報をレイヤとして表示できるものでございますが、この情報の1つとして、文化財情報を作成しようというものです。文化財の適切な保存・管理に有益なものとなり、各部署との情報共有の緊密な連携が可能となるものと考えております。

4点目は、古写真の収集と利活用でございます。市民や市の出身者、市内の法人等から古写真を収集し、デジタルデータとして保存することを計画しております。収集した古写真は、ふるさと学習事業などで活用し、広く市民に公開する計画です。

以上で、生涯学習課からの新規事業の案の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○ 田中市長

「(2) 協議第2号 平成29年度新規・拡充事業について」の説明を受けましたので、協議に入りたいと思います。まずは、私の方から、質問という形で入らせていただきます。

最初の「ICT活用事業」についてでございますけれども、大柿中学校で平成27年度に取り組んでいるということですが、子どもたちや教員の反応は、実際にやってみて、どのようなものでしょうか。

○ 畠藤学校教育課長

実際に、デジタルペンで書いたものがタブレットに写されるというような活用をして、子どもたちはデジタルペンを初めて持って、興味を持ちながら学習しているという状況です。

デジタルペンを使って紙に書いたものが黒板上に写されますので、「友達の考えを見ながら、他の子が授業の考えを深めるというところは、非常によい」と教員も言っております。

教員の方は、デジタルペンが学校に入ったのが今年度8月ということで、2学期からの実践になっておりますので、まだ上手に使いながら指導するまでには至っていないのですけれども、研修や授業研究を行いながら、うまく使えるようにしていこうという状況でございます。

○ 田中市長

テレビで見るとはございますけれども、生徒が回答を書くと、他の生徒がその回答を見れるということですか。

○ 畠藤学校教育課長

はい、そうです。

○ 田中市長

生徒がそれを見て、「自分と同じ回答だな」、「人と違うね」と言う。そういうやり方の中で、勉強をする、授業を進めるということですか。

- 畠藤学校教育課長
はい、そうです。

- 塚田教育委員会教育長
デジタルペンは実際に紙に書くもので、その紙は家に持って帰れるということなので、今までは持って帰れませんでしたけれども、持って帰れるというメリットがあります。

- 田中市長
今までにない新しい勉強の方法が入ってくるということですので、教育委員会全体としては、どう考えますか。もっと広げるという考えなのですか。

- 塚田教育委員会教育長
手段としてICTを使って学力を上げるというのは、中町小学校と大柿中学校で今年度から行っております。委員長、教育委員会としてどうでしょうか。

- 三島教育委員会委員長
どう考えるかというよりも、当然のことみたいな感じでおります。当然やっていかなければならない教育の方法だと思っております。
昨年の話ですが、能美中学校で体育の授業をするのにタブレットを使うと、前転や後転で自分の姿がわかります。先生に「ここがこうだ」とか言われるより、実際に自分がどうだったかというのが見れる、百聞は一見にしかずではないですけれども、改善というか、自分の能力をパッと上げるためには、これが一番適切なやり方だなと思いました。

- 田中市長
世の中がそうなっているから、当然、入れていなければいけないということですか。

- 三島教育委員会委員長
そう思います。

- 樋上教育委員会委員長職務代理者
私も、他の先進校をいろいろ見させていただきましたけれども、もう皆揃って当然のような感じになっています。もう時代が、私の感覚とは全く違います。ICTが全部よいとは思わないけれども、使い方によって世界が広がって、子どもたちの交流もできるし、先生たちも子どもたちの考えがわかるし、利点はすごくあります。当然、使わせていくべきと思います。
江田島で学んでよかった、お母さん方が学ばせたいと思う、そういう教育機器が遅れていたなら、よそに行かせたくなるのではないですか。時代の流れに乗らないといけないのではないかなと思います。

- 田中市長
子どもたちは、早いから、すぐ慣れる。新しい発想、今までは先生たちが書いていたものが、自分たちで情報を共有できる、新しい世界に入っていける。そういう意味では、新しい時代の教育になるのではないかと思います。
- 柳川教育委員会委員
私の子どもも、「楽しいよ」と言っています。取っ掛かりが何であれ、やはり、そこから入るのは、よいことではないかなと思います。
- 田中市長
例えば、自分の子どもが広島市内の高校に行くのに、当たり前の話でタブレットを扱っていると、うちの高校は今まで扱ったことがないというような話になります。その辺りで、教育現場の仕事が増えるということはないですか。
- 樋上教育委員会委員長職務代理者
そんなことはないと思います。業務改善の面ではなく、指導の面では、いろいろと効果的な方法を考えますから、増えることはないと思います。でも、方法としては、絶対によいことだと思います。
- 三島教育委員会委員長
業務改善の方に話が入りますけれども、システムを入れたからといって、先生のすることがパタッと減るかといったら、たぶんそんなことはないと思います。ただ、事務的な仕事量は、確実に減ります。減るのですけれども、職務代理者が言われるように、子どもたちにどう教えるかということ、自分たちの業務にいかにかつてていくかということです。そうすると、仕事全体がパタッと減ることはないと思いますけれども、教える内容は、充実することにつながると思います。
- 塚田教育委員会教育長
教材研究のためにその時間を使ったり、一番大きいのは、子どもと向かい合う時間ができることだと思います。例えば、中学校であれば部活動に毎日出て子どもの様子を見る、小学校であれば放課後に子どもと話をしたり、休憩時間に遊んだりとか、そういった時間が増えればよいかなと思います。
- 田中市長
業務改善というのは、先生の充実した時間を増やそうというものですから、一般的には、過剰な能力を超えた仕事量があるということでしょうから、合理化すれば、職員会議で集まらなくても、情報収集できる方法も出てきます。そこらのことでしょう。
- 塚田教育委員会教育長
ICT機器を業務改善に活用することによって、多忙感が無くなる、時間が出てくるというデータがありますので、教育委員会事務局から紹介させていただきます。

○ 畠藤学校教育課長

表を作成してきました。先ほど、文部科学省の「教員勤務実態調査」の話をさせていただいたところですが、昭和41年の調査では、残業時間が月に8時間程度でした。平成18年の調査では、月に34時間の残業をしているとの実態があることから、校務支援システム等の校務を軽減するためのシステムを活用したらどうかというところでした。

導入した後の効果ですが、仕事量としては、変わっておりません。従来、評定を作成している時間、評定というのが成績に関わるもので、テストの○付け、それを入力してまとめて成績表を作って、さらに、学年末に1, 2, 3学期の成績をまとめて指導要録を作るという作業があるのですが、その作成の時間が全体の38%を占めていたものが、このシステムを導入した結果、28.3%ということで、少なくなっているということがいえます。それによって、学力向上に充てる時間が増えたというデータがございます。

そして、成績表を集めて指導要録にまとめる転記作業があるのですが、その「転記作業が少なくなったと感じた」、「大いに効果があった」、「効果があった」という教員が、100%ということです。

その他には、情報を再利用できますので、作業の時間が減ったと考えた教員が96.7%であったというデータがございます。以上です。

○ 田中市長

何かの形で作業量が減った、仕事量が減ったということですね。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

市の仕事でも同じですよ。仕事の中身も変わってくるというか、学校も時代の流れで、昔のようにチョーク1つでという時代ではないです。子どもたちも、そういう環境の中にはないですか。「鉄は熱いうちに打て」ではないですが、早いうちからそういうものに慣れさせる必要があると思います。

○ 塚田教育委員会教育長

今年7月に、文部科学省から通知があったのですが、全国アンケートの結果がきておまして、事務処理の情報化システムの整備を推進している市区町村が、45.7%という状況です。そして、教育指導面、つまり、出欠処理、成績処理等の情報化システムの整備を推進している市区町村が、38.3%という状況です。半分までいっていないという状況です。

広島県内の細かいデータも送られてきたのですが、政令指定都市の広島市を除き、今の前者の方でいいますと、事務処理の情報化システムの整備が22市町のうち10市町、後者の教育指導面の情報化システムの整備が22市町のうち10市町ということで、半分までいっていない、全国の傾向と同じくらいであるというものです。

○ 田中市長

どういうシステムになるのかわからないのですが、業者がいて、学校業務をしっかり把握できた人がするのか、標準的なのか、ここをこうすればとか、これをすれば手間が省けるとか、

1 学年で複数のクラスで同じ英語のテストをやれば、1 人が採点をしなくてよくなるとか、システムを組むのにプロがいるのか、自分たちでシステムを作っていくのか、中身はどのようなものですか。

○ 畠藤学校教育課長

システムは、同じようなものを各会社が出しており、それぞれの会社にエンジニアがいて、それぞれの学校に応じた仕様にしていただいたりとか、カスタマイズが可能ということになっています。そういったものを含めて、全て面倒をみていただけるという仕様でお願いする形にしたいと考えています。

○ 田中市長

教員が気付かないもの、教員が気付く以上に外部の者でシステムを組む人が、これは更によくなるというものがあると思います。学校側の要望だけでは、まだまだ足りない。教員は、その分野では専門ではないので、外部の目でこれをやるという話になってくると思います。

○ 塚田教育委員会教育長

先ほど、学校教育課長が申し上げましたとおり、基本の仕様がありまして、加えてオプションがあります。業者は、他の地区の情報もたくさん知っていますので、「こういったものがありますよ」、「あそこの市町がこういうものがよかったと言っていますよ」と情報提供していただきながら、こちらが気付かなかったものでも作っていくというイメージを持っています。

○ 田中市長

自分のところにだけにこだわらずに、やるところは徹底してやるとよいと思います。「ICT活用事業」については、終わらせていただきます。

次に、「外国語指導事業」についてです。ALTは、昨年もありましたが、平成29年度はどうしても3人にしなくてはならないということですか。平成28年度は、1年前倒しでという理解でよいですか。

○ 塚田教育委員会教育長

はい。

○ 田中市長

全体とすれば、英語教育は、だんだんと必要になってくると思います。今の英語教育はどのような感じなのか、例えば、全然足りないのか、進んでいるのか、もっと小さい年代から行うというのもありますし、ただ国が言うからやるものでもない。そこらはどうなんでしょうか。

○ 三島教育委員会委員長

個人的なものでもよいですか。

○ 田中市長

はい。

○ 三島教育委員会委員長

市長が言われたように、年代が低いほど効果が上がるということです。昨年、中町小学校へ授業参観に行ったときに、ALTが来て、特別授業ということでもう1人地域の方が来られて、英語の授業を行いました。子どもが、すごく楽しそうでした。机に座って行う授業ではなくて、郵便局に行きましょう、図書館に行きましょう、ここから郵便局に行くのにどのようなコースを取りますかという授業です。ゴー・ストレート、真っ直ぐ行きます、突き当たったらどっちに曲がるか、ターン・レフトかターン・ライトか、そのようなことを先生が質問して子どもが答える。そして、着きました。すごく楽しそうで、よいことだなと改めて思いました。子どもの発音も、低年齢の方から耳を慣らすことがすごく大切なことで、小学校で授業をする、中学校で授業をする以前からその取組を行うことが一番大事なのではないかなと思います。

今年も、小学校で学習発表会があったときに、英語で劇をやっていたのが、かなりよい発音だったと思います。中学校でも、文化祭で英語の暗唱大会をやっています。こういうのは、1人2人が暗唱大会に出るのではなくて、ほとんど全部の子ができるくらいに持っていかないと、これから国際的に活躍してくれなくてもよいのですが、普通に生活する上でもそれくらいのことができていないと、例えば、商売するにしても、商売自体が小さくなってしまいます。可能性を広げるためにも、絶対に英語力が必要かなと思います。

○ 田中市長

わかりました。ここにいるのは、英語をしゃべれない人ばかりかもしれませんが、しゃべれるだけでも随分と楽しいことだと想像できます。旅行に行っても楽しいし、大抵のことには対応できます。特に、最近では、観光関係の営業が外国の方に対応しているのがマスコミで紹介されていますし、ヨーロッパの言葉の違う国が接しているところでは、1人で3つも4つもしゃべれることもあります。そう思えば、日本は島国で、日本語だけでよかったのですが、時代が完全に変わっています。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

先ほど、委員長も言われた英語劇について、大古小学校と柿浦小学校で見ましたけど、楽しそうで、表情を付けて表現しながら、見ている保護者も1年生も2年生も、わからないけど楽しんでいました。後で感想を聞いていたら、「僕らもやってみたい」と小さい子が言っていました。親も、微笑ましく、うれしそうな顔で、わからないけど聞いていました。私が現役の頃では、考えられないことだなと思いました。これにALTが関わっているのです、よい発音で。これをどんどんやってくれたら、子どもたちが英語を好きになるのではないかなと本当に思いました。

○ 田中市長

世界に出たら、最低限の意思疎通ができないといけませんから、しっかりやって、せめてあいさつや買い物ができるくらいになってもらいたいです。

○ 今井教育委員会委員

子どもの頃から英語をやっておくというのは、実体験としてあるのですけれども、子どもが小さいうちにテレビで聞いた発音は、すごくきれいです。ずっと聞かしていこうと思ったら、文字が読めるうちからでも、英語を聞かすような時間があればよいと思います。学校に入って、ちょっと英語に慣れるというか、授業という形でなくてもよいのですけれども、やはり外国の方と出会う時間があれば、子どもたちも自然と英語が出てくるようになると思います。日本人を相手に英語というのはなかなか難しいので、外国人の先生の発音を聞きながら、自然に触れ合う時間がすごく大切ではないかなと思います。

○ 田中市長

一番理想的なのは、日本式の英語を習っておいて、高校くらいになると半年くらい外国にホームステイをすれば、本当の発音ができるのですが、全部がそういう訳にはいかないです。江田島市においても、多くのフィリピンの方がいて、英語を話されますから、そこらをうまく連携できればよいのですが。中国は、英語は駄目でしょう。ベトナム、インドネシア、後はフィリピンでしょうか。

○ 柳川教育委員会委員

インドネシアは、一部です。日本が、一番駄目です。

○ 田中市長

近くに英語が母国語という人がいますから、外国との距離が縮まれば、例えば、東京に就職したら、英語は必要です。広島でも中小企業が外国に出ていますから、タイや中国に出ていくと、英語を使います。そういう面では、今の子どもたちは、英語をマスターしておかないと、広がる道が1つ狭まる可能性があります。子どもの進路を広げるためには、英語がしゃべれる必要があります。英語がしゃべれるというのは、進路保証のようなものです。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

私が現役のときは、日本語もできないのになんで英語みたいな感覚でしたが、時代が日進月歩、進んでいる、変わっているということです。環境を作ってあげないといけません。

○ 田中市長

進路を広げるための1つのもので、これがないとできない、英語がしゃべれないとできない仕事があります。英語でなく、中国語でもよいのです。私は、自分の子どもに中国語を習うように言ったのですが、私が言ったことは、正しかったのです。というのは、中国が経済大国になり、日本からどんどん中国に行きました。中国語を勉強していて、日本の会社に入っていれば、中国に行けたのです。英語は、少なくとも国際共通語で、今でも日本人が中国に行けば、コミュニケーションは英語です。中国語でしゃべれれば、更によいということです。進路を広げる1つの手段だと思って、子どもたちには一生懸命に英語を習ってもらいたいです。

後は、「中学校エアコン設置事業」です。エアコンがあれば、涼しくて落ち着いて勉強できるということですか。エアコンがある学校はどうですか。大柿中学校と三高中学校がないですが、子

どもたちは、あまり夏休みに学校に行くことがないのですか。

○ 三島教育委員会委員長

効果があったかということですか。

○ 田中市長

そうです。

○ 畠藤学校教育課長

学習環境が快適になったということで、それに伴って生徒の学習意欲が高まったということを学校の方から聞いております。それと、10月も暑い日がありましたので、冷房を活用したということを聞いております。

○ 三島教育委員会委員長

これから地球全体の気温が下がるということではなく、温暖化がどんどん進んでいくと思います。そうすると、学習環境を整えてあげる必要があるのかなと思います。今、中学校の計画ができていますけれども、中学校の計画が終わった後、一遍にというのではないのですが、小学校の計画を立てる必要があるのかなと思います。

○ 田中市長

エアコンも、計画どおり進めるのがよいと思います。

それから、「ふるさと再発見事業」について、文化財を重要だと思わないから、うまく整理されないのです。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

整理しておかないと、お年の方がどんどん亡くなっていきますので、わからないことがあります。深江でも調べたりしていますが、昔の資料が残っていて、こういうところにこういうものがあったのか、これはこうだったのかといったことがたくさんあります。残して伝えていかないといけないと思います。

○ 田中市長

資料9ページの事業の目的のとおりだと思います。地元の人というか、どこも残さないといけないという感覚が薄いです。こういうものにお金をかけることに感覚が薄いです。きちっと残しておいたら、何十年か経った後、古い物を見ると、「いいものを残しておいたね」となるのですが、今の時点で残すことに力を入れないのです。そこらの価値観がわからないのです。どうしても残しておかなければいけないものがあるのですか。

○ 三島教育委員会委員長

まさに今から検討していきます。

○ 仁井生涯学習課長

平成19年に「江田島市の文化財」というパンフレットを作っておりまして、こちらに、仏像、樋門、肖像、楼門が出ています。こういったものは、今回、パンフレットを刷新して、将来に伝えるものであることを改めて強調させていただきます。これと別に、見過ごされがちな古い写真について、市長が言われたように、今は特に重要視されていないけれど、何年も経って見直してみたら昔はこうだったのかとわかる資料は、大事な資料となりますので、重要視されていない今のうちに残すものに手を付けてみようということで計画させていただきました。

○ 田中市長

第一術科学校は、建って130年で、近代建築というのか、そういったものの価値があるといえます。形がなくなるとペーパーにしか残らないから、本当に価値のあるものは、そのものを残しておけばよいが、お金がかかります。そこらは、再発見事業について、教育委員会がどこまで手当するのか、本にして記録するだけにするのか、もう少し入って行って形を残したままでないといけないとか、どこまで入っていくかです。今のところは、形があるものは残すとか残さないとかではなく、取り組んで、調査したり、検討しましょうということですか。

○ 仁井生涯学習課長

そうです。今のところは、パンフレットを整理してみよう、古写真を集めてみようというところですね。

○ 三島教育委員会委員長

個人の持ち物が多いです。こちらがどこまで入っていけるのか、手持ちで管理できるのなら話は別ですけども、建物自体をどうするのかということもあります。

○ 田中市長

議会のと看にいつも、江田島庁舎から山の上の方に観音堂が見えます。地区の人の管理なのか、どれくらい年数が経っているのか、かなり傷んできています。

○ 三島教育委員会委員長

あの観音堂は、誰がどのように管理しているのですか。

○ 仁井生涯学習課長

そこについては、以前に指定がされていると思うのですが、地区がそのまま残していただけだと思うのですが。

○ 田中市長

大原にもたくさんあります。誰の持ち物か、誰が管理するのか、管理するとなると、お金がかかりますので、なかなか市の予算がつきにくい。事業を行うときに、担当課はそこらを吟味しておかないと、ただ紙で残しただけになります。

○ 仁井生涯学習課長

先ほど、委員長から御指摘のあった観音堂ですが、こちらのパンフレットには、所有者、管理者等が出ていません。今回、「江田島市の文化財」の刷新を計画させていただいているのですが、そういったことも含めて、平成29年度に調査して、平成30年度に作ることを考えています。できるだけ詳しいものにして、あらゆる分野で役に立てるようにするつもりでいます。

○ 田中市長

地方創生という時代に入ってきていますから、議員から観光資源になるものがあるのではないかという話が出るかもしれないから、よく調べてまとめるようにしていただければよいと思います。そういう時代に入っていますから、大事に残すものはしっかり残してもらえればよいですし、そこはよく調査してみてください。

他に何かありましたら、どうぞ。私の質問は、終わらせていただきます。

○ 田中市長

ありませんか。よいですか。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

「(3) その他」についてでございますが、何か協議しておくべきことがありましたら、お願いいたします。せっかくの機会ですので、御遠慮なく発言していただきたいと思います。

私と教育委員会とで、教育について深い議論ができればよいのですが、短い時間でなかなかできませんので、いずれお互いに本音で議論ができるようにしていただきたいと思います。

ないですか。

○ 田中市長

ないようでしたら、本日の会議を終了させていただきます。

ちょっとだけ時間を頂いて、皆様、御存じのように、12月4日で私の任期がきますので、12月5日からは、新しい市長が江田島市政を担うこととなります。教育委員会の委員の方々には、私が8年間在任いたしまして、ここにおられない委員もたくさんおられますけれども、皆様方には御協力いただきまして、大変ありがとうございました。

江田島市も、児童生徒が減っていますけれども、大きくマスコミに取り上げられるような事件、いじめ、いじめによる自殺、そういったものはありませんでした。多少はあると思いますが、全国ニュースになることもなく、比較的孩子もたちが仲良く、保護者との意思疎通も進んでいるのではないかと感じておりました。それぞれの学校で小さいことはたくさんあると思いますけれども、全体的に、合併して12年間、うまくいったのではないかと思います。

願わくは、子どもたちの学力が上がって、世界で活躍するような子どもたちが誕生してくればと思います。先日の武島蓮くんは囲碁の5段で、中国地区の大会で優勝したり、ちょっと古くなりますと、栗原恵さん、西塔拓己さんのようにスポーツ界で活躍する子どもたちもいますし、江田島の子どもたちがいろんなところで活躍しております。卒業して既に30代くらいの方も、民間会社等で活躍しています。見る度に誇らしく思いますけれども、小さい頃からの家庭での子どもの育て方、外へ出てからの学校での子どもの育て方に由来しているのではないかと思います。しっかり育ててくれているのではないかと思います。

これからも是非，新しい市長と協力して，江田島の子どもたちのために適切なアドバイスをしていただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。長い間，ありがとうございました。

○ 山井総務課長

それでは，以上で，「平成28年度第2回江田島市総合教育会議」を終了させていただきます。皆様，どうもありがとうございました。